

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

埼玉県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	戸田市立戸田第一小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	3	4	2	26	37
児童数	154	136	142	142	115	121	13	823	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善  
 - 教科担任制の実施と算数科における少人数指導を中心として -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

【教科担任制】  
 第4学年から第6学年(教員の得意分野を生かし、教科の本質に迫る学習を展開する。)  
 【少人数指導】  
 第1学年から第6学年算数科(一人一人の児童の興味・関心や理解の程度に合わせた指導の充実を図る。)

(2) 年次ごとの計画

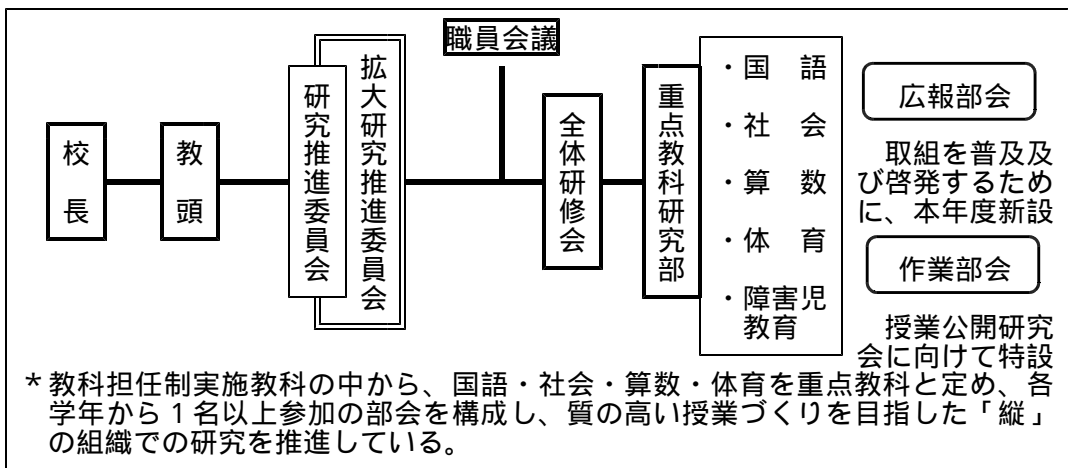
平成14年度	<p>テーマ                  個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善                  研究の見通し(仮説)                  教科担任制の実施によって、教材研究の時間を十分に確保し、教科の本質に迫る学習を展開することで、児童に学習の楽しさを実感させ「確かな学力」を育む。                  算数科において、少人数指導を導入することで、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導ができ、基礎・基本を確実に身につけ「確かな学力」を育む。</p> <p>研究の内容・方法                  [研究内容]                  小学校における教科担任制、算数科における少人数指導の在り方                  [研究方法]                  各教科における指導方法・指導体制の工夫、評価を生かした指導の在り方</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ                  個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善                  - 教科担任制の実施と算数科における少人数指導を中心として -</p> <p>研究の見通し(仮説)                  上記と同じ</p> <p>研究の内容・方法                  [研究内容]                  小学校における教科担任制、算数科における少人数指導の在り方                  第5・6学年に加えて、第4学年へも、一部教科担任制を導入する。                  全学年、全時間の算数科の指導において、少人数指導体制を導入する。</p>
--------	---

	<p>[ 研究方法 ] 各教科における指導方法・指導体制の工夫、算数科における個に応じた指導のための教材開発、評価を生かした指導の在り方</p>
--	--

平成 16 年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 - 教科担任制の実施と算数科における少人数指導を中心として - 研究の見通し(仮説) 上記と同じ 研究の内容・方法 [ 研究内容 ] 小学校における教科担任制、算数科における少人数指導の在り方 第4学年以上への、教科担任制及び他学年における交換授業を推進する。 算数科以外の指導においても、少人数指導体制を導入する。 [ 研究方法 ] 各教科における指導方法・指導体制の工夫、算数科における個に応じた指導のための教材開発、評価を生かした指導の在り方</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

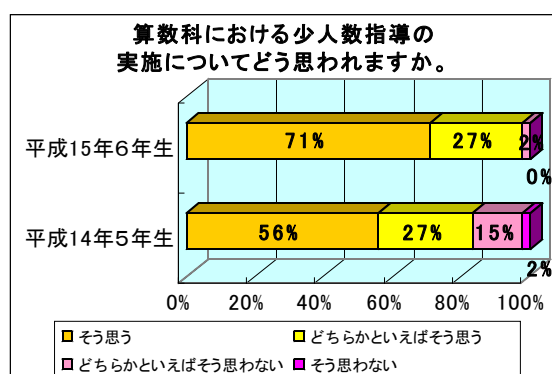
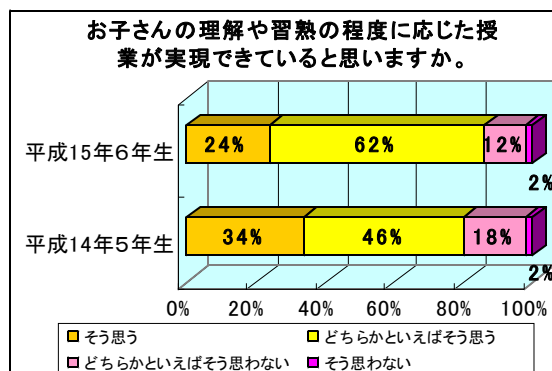
**【教科担任制】**  
 ・平成15年10月実施の意識調査において、児童およそ70%、保護者、教師においては、95%が、教科担任制による指導体制を「受け入れている」「どちらかといえば受け入れている」と回答している。その主な理由として、児童は「学年の教師とのかかわりが増えた。」「楽しく、わかりやすく学習できる。」などと回答している。  
 保護者は、「教師が工夫した授業を行っている。」「教科ごとに教師が替わることで、子どもにほどよい緊張感が生じている。」などと回答している。また、教師においては、「学年全体の児童にかかわる機会が増え、学年で指導する体制がつくられた。」などと回答している。  
 ・自ら受けもつ教科を同学年の他学級でも教えることになり、自らの授業を比較し検討する場が設けられ授業の質的な向上が図れる。  
 ・学年の教師が、学年一人一人の児童の実態を、多面的に把握することができる。

教科によって教師が替わることを、違和感なく受け入れていますか。

対象者	受け入れている	どちらかといえば受け入れている	どちらかといえば受け入れていない	受け入れていない
5年生児童	35%	35%	27%	3%
6年生児童	30%	46%	21%	3%
4年保護者	58%	37%	2%	3%
5年保護者	64%	34%	0%	1%
6年保護者	62%	32%	6%	0%
教師	50%	42%	8%	0%

**【算数科における少人数指導】**

- 平成 15 年度 10 月実施の保護者を対象にした調査「理解や習熟の程度に応じた授業の実現状況」については、昨年度と同調査と比較して、第 6 学年において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、6 ポイント上昇した。
- 算数科における少人数指導の実施については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、15 ポイント上昇した。このことは、本校における少人数指導の取組についての理解を得られたことと受け止めている。
- 本年度の実践をとおして、少人数指導の 3 つの形態(「T・T型」「ハーフ型」「コース型」)が明確になった。
- 「数と計算」領域の指導には、「T・T型」と「コース型」の組み合わせが、「図形」領域には、「ハーフ型」と「T・T型」の組み合わせが効果的であり、どの領域のどの段階に各形態の指導が適しているか明らかになった。



2. 今後の課題

- \* 学力向上フロンティアスクールとして、保護者・地域社会への情報公開・情報発信をとおして、「確かな学力」を高めるためのきめ細かな指導方法の啓発に努める。
- \* 児童の実態を把握するための調査や毎時間の学習の態様の累積に努め、個に応じた指導の充実に努める。
- \* 算数科における少人数指導の各形態について、どの単元のどの段階にはどのような指導体制が適しているかを年間指導計画へ位置付けを図っていく。

学力等把握のための学校としての取組

- \* 定期的な学力調査を年 1 回 1 学期に実施(全国標準診断学力検査 数研式)
- \* 本校重点教科における児童の学習観を捉えるための実態調査を、平成 15 年 9 月に実施
- \* 教科担任制及び算数科における少人数指導の指導体制について、7 月と 2 月に児童・保護者対象に意識調査を実施
- \* 児童の毎時間の学習の態様を累積

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 平成 15 年 11 月 28 日 2 年次授業公開研究会を本校にて開催
- \* 研究成果普及のための H P 作成、研究紀要、研究の取組をまとめた C D - R O M を作成
- \* フロンティアティーチャーとして、算数科少人数指導の在り方等について他校校内研修にて講話

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無